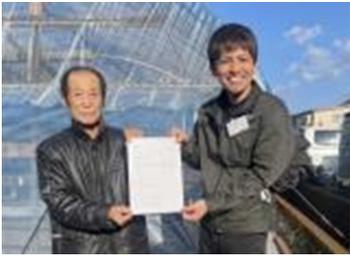


情勢報告（令和7年2月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

さらによい農場に ～高知県 GAP 第三者確認制度の登録更新～



園芸部長と JA 営農指導員

JA 高知県れいほく園芸部は令和元年度に高知県 GAP 第三者確認制度の団体登録をうけています。今年度は米ナス部会、シシトウ部会、カラーピーマン部会、土佐甘とう部会の4部会が、国が示す「国際水準 GAP ガイドライン」の取組事項に記載の内容に取り組み、現地確認を受け、1月14日に登録されました。

普及所は団体事務局である JA とともに、日々の GAP 指導を続け、調査に向け支援をしてきました。

JA 営農指導員は「今後も GAP の取り組みを通じて、特に市場事故・農作業事故対策に取り組んでいきたい。」と話しています。

普及所は、今後も JA と連携し、れいほく園芸部の GAP の取り組みを支援していきます。

さらなる経営発展を目指して ～農業経営・就農支援センター専門家派遣～



次作の資金繰表を作成中

1月30日、管内の経営発展志向農家が経営改善を図るため専門家を交えて面談を行いました。

昨年の経営実績に基づき資金繰表を作成し、今後の経営についてシミュレーションすることで改善点の洗い出し等を行いました。普及所は面談に向けた事前の調整や地域の営農実態に沿ってアドバイスをしました。

経営発展志向農家からは、「資金繰表を作成したことがなかったが、月次で数字が把握できて改善点が見えやすい」とや「この経費を削減したい」、「もっと収量を上げなければ」といった声があり、次作の経営の方向性が明確になりました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、農業者の経営発展を支援していきます。

シシトウ栽培者を増やそう！ ～シシトウ新規栽培者講習会～



講習会の様子

2月7日、れいほく園芸部シシトウ部会は嶺北農業改良普及所の研修室にて、シシトウ新規栽培者講習会を開催しました。この講習会は来年度から新たにシシトウを栽培する人に向けて栽培の基本についてお伝えするもので、当日は6名が参加されました。

講習会では部会長、JA 営農指導員、普及所職員が講師を務め、参加者から出た栽培に関する質問などに答えました。参加者からは「具体的に教えてもらえて良かった」と好評でした。

普及所は、今後も JA と連携し、新規栽培者確保の取り組みを行っていきます。

土壌肥料と病害虫防除を学ぼう！ ～れいほく寺子屋で農業基礎講座を開催～



講座の様子

2月15日、JA高知県女性部れいほく地区がJA高知県れいほく支所で「第22回れいほく寺子屋」を開催し、23名が出席しました。

嶺北農業改良普及所は土壌肥料や病害虫防除について講義を行い、出席者からは「知らない内容もあって大変勉強になった」と好評でした。講義後には、連作障害を抑制するための後作目や定植までに行う土作りの手順について質問があったほか、タマネギやダイコンで発生した症状に関する相談も寄せられました。

普及所は、今後も女性農業者に向けた活動を支援していきます。

土壌病害対策で増収を目指して ～土壌還元消毒の実証～



土壌還元処理作業の様子

嶺北地域には、青枯病等の土壌病害が蔓延し、大きく減収しているほ場があり、その対策として、土壌還元消毒が考えられます。しかし、夏秋産地では土壌還元消毒の適期が栽培期間と重なるため、効果的な土壌還元消毒が確立できていません。

そこで、普及所は2月18日に、資材メーカー、病害虫担当専門技術員、農業技術センター等と連携し、土壌還元消毒の実証ほを設置しました。

実証農家は「土壌病害で収量が減少して困っていた。嶺北地域でも実施できる土壌病害対策が確立されれば、収量も向上し、ありがたい。」と話していました。

普及所は、今後も病害虫対策を通じて、収量向上による所得増大を目指し、支援していきます。

持続可能な地域農業の実現に向けて ～大豊町水稲勉強会～



勉強会の様子

2月19日、大豊町穴内地区で水稲勉強会が開催され、地域の農業者等17名が参加しました。これは、地域計画策定に係る集落座談会のなかで、「今米づくりをしている人がいなくなれば誰も作り方が分からなくなる。地域の皆が基本的な知識を持っておきたい。」といった声があり、開催に至ったものです。

普及所は講師として、育苗や田植後の水管理等、水稲栽培の基礎を説明しました。参加者からは「移住者や普段作業を手伝っている人には基礎から学べて非常に勉強になる。」といった声がありました。

普及所は今後、7月に第2回目の勉強会を開催し、現地のほ場を見ながら穂肥や収穫までの管理等を指導する予定です。